経　営　成　績

1. 当期の業績の概況

当中間期のわが国経済は、個人消費が伸び悩んだものの、企業収益の改善等を背景に民間設備投資が持ち直し、依然厳しい状況ながらも、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

一方、海外では、米国経済が引き続き好調を持続し、またアジア経済も総じて回復に向かいました。

このような状況の下、当中間期の連結売上高は、4,570 億 3 百万円、経常利益 48 億 6 千 7 百万円、当期純損失は 475 億 4 千 7 百万円となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

事業の種類別セグメント

ア　セメント事業

セメントの国内総需要は、官公需が低調だったものの都市部における再開発事業やマンション建設を中心に民需に回復がみられ、比較的堅調に推移しましたが、一方、国内のセメント市況は弱含みに推移しました。また主要輸出先であるアジア諸国のセメント需要は一部を除きようやく上向き始めたものの、かつての水準までには至りませんでした。

このような情勢の下、当社のセメント販売数量は受託販売分を含め、1,440 万屯となりました。国内のセメント価格につきましては、期初よりセメントの引渡しを従来のユーザー持込渡しからＳＳ（サービスステーション）渡しに変更したことに伴い、運賃を差し引いた価格に変更し、そのため、売上高が運賃相当分減少しました。一方、輸出価格につきましてはアジア地域を中心に依然として低水準で推移しました。

また米国西海岸のセメント事業は旺盛な建設需要に支えられ、引き続き好調を維持し、中国大連市、南京市、秦皇島市の各合弁セメント工場も順調な稼動を続けております。

以上の結果、売上高は 1,402 億 2 千 8 百万円、営業利益は 107 億 8 千 3 百万円となりました。

イ　資源事業

骨材や鉱産品ともに地域の需要動向によりばらつきがあるものの、全体としては比較的堅調に推移しました。また関西国際空港第２期工事・中部国際空港工事向け埋立用土砂の出荷も本格的に始まったため、売上高は 380 億 7 千万円、営業利益は 27 億 5 千 2 百万円となりました。

ウ　建材・建築土木事業

ＡＬＣ（軽量気泡コンクリート）事業や生コン会社の集約化、建設資材部門や建材工場の移管などの事業再編を積極的に行なってまいりましたが、一方、依然として需要に盛り上がりを欠き、市況も低調に推移した結果、売上高は 2,048 億 1 千 9 百万円、営業損失は 12 億 4 千 4 百万円となりました。

エ　不動産事業

オフィスビル事業環境が依然として厳しい中、新規物件の賃貸開始等が寄与するなど、売上高は 72 億 1 千万円、営業利益は 30 億 8 千 5 百万円となりました。

オ　その他の事業

ゼロエミッション事業は産業廃棄物処理が順調に拡大し、また、セラミックス事業は旺盛な需要に支えられるなど、売上高は 666 億 7 千 6 百万円、営業利益は 13 億 3 千 7 百万円となりました。

所在地別セグメント

ア　本邦

国内景気は依然厳しい状況の中において、資源事業は比較的堅調に推移したものの、セメント事業、建材・建築土木事業等においては、市況は弱含みに推移し、引き続き厳しい状況となりました。その結果、売上高は 4,116 億 6 百万円、営業利益は 97 億 6 千 9 百万円となりました。

イ　北米

米国西海岸のセメント事業等は引き続き好調に推移したため、売上高は 316 億 7 千 4 百万円、営業利益は 52 億 4 千 5 百万円となりました。

ウ　アジア

中国におけるセメント事業、マレーシアにおけるエレクトロニクス事業は共に順調に推移しており、売上高は 132 億 2 千 2 百万円、営業利益は 9 億 4 千 2 百万円となりました。

キャッシュ・フロー

当中間期の営業活動によるキャッシュ・フローは 190 億 3 百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは 212 億 1 千 8 百万円の支出となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは 71 億 3 千 1 百万円の支出となりました。

当中間期末の現金及び現金同等物は、前期末と比較して 42 億 4 千 3 百万円減少の 907 億 3 千 7 百万円となりました。

２．通期の見通し

当下半期のわが国経済は、民需主導の自律的な景気回復に向かうことが期待されますが、回復テンポは緩やかであると予想され、また、米国経済や雇用・消費の動向も不透明なことから先行きには予断を許さないものがあります。

このような情勢の中、当社は収益力の強化と財務構造の改善に取り組むと共に、各事業の戦略的な再構築を進めながら、グループの強化に努めてまいります。

業績見通しについては、売上高 1 兆 400 億円、経常利益 190 億円、当期純損失 390 億円を予想しております。